



手づくりの効用



「これは手づくりですか？」

桃の節句に飾ったつるし飾りを見たご利用者様から、よくたずねられます。色とりどりの布で作った花や縁起物を連ねたつるし飾りは、ご利用者 F 様のご家族様からご寄贈いただきました。製作に4か月ほどかかったそうです。

手づくりは時間がかかりますが、作り手の想いを見るようで、心を動かされます。介護の現場では手づくりの効用を取り入れています。



ご家族様からは、全部で4体のつるし飾りをご寄贈いただきました。おかげで施設内が華やかです。

世界にひとつだけの恵方巻

手づくりのよい所は、作られたものの良しあしではなく、作ること、その体験だと思います。自分で手を動かして、頭を働かせて作ってみることです。

節分の日。ご利用者様お一人お一人が、ご自分だけの恵方巻を作りました。好きな具をのせて巻いていきます。おっかなびっくりしつつも、表情は楽しそうです。男性の方もお上手で、ご家族様にその様子を写真でお見せしたところ、「家では食器も洗ったことがないのに」と驚かれていました。ご自分で作ったという達成感と、ご自分だけの恵方巻という愛着もあり、美味しさもひとしおのご様子でした。

「自分のことは自分で、好きなようにできる」ことは、介護が必要になっても、大切にしたい視点です。

作る時は、お一人ずつ距離を空けて、手袋・マスク着用で行っています。



デイサービスセンター澁沢

手縫いは心落ち着く時間

今年からご利用のM様は、手芸がお好きで、手縫いをしている時が心落ち着く時間です。ご利用者様が食事で使うエプロンを縫って下さったのですが、糸はきれいに真っすぐ、端のほつれ処理も施して下さっていました。また、一度引いた型紙を再度やり直すなど妥協を許さない丁寧な仕事ぶりです。

今は5月に向けて、M様をリーダーに、皆様と鯉のぼりの装飾物を作っています。新しいことに消極的なM様も、この提案をすると、「やりたい！」と即答されました。3月から着手し、M様のペースに合わせ、ゆっくり時間をかけて取り組んでいます。

太い糸を使って見やすしたり、細かい作業は職員が担うなど、お疲れなく作業ができるよう配慮しています。



人の心を想う

介護の提供者にとっても、ご利用者様は様々です。手づくりにこだわっています。

例えば運動。ビデオを流して、同じように体を動かせば、運動になりますが、ご利用者様にとって簡単だったり、逆に難しそうだったら、その方に合わせた体操を調べて職員独自の体操法を実践します。

食事も一律にお弁当を頼む方が手間はかかりませんが、職員がその方の好み、食形態、温度などに配慮した献立を提供します。



どうすれば召し上がっていただけるか、入浴していただけるか・・・あの手この手を尽くすのは、ご利用者様に喜んでいただきたいからです。私たちの想いがご利用者様に伝わり、心を動かす介護が提供できているとしたら幸せです。

昨年10月よりグループホーム渋沢にご入居されたY様。当時、日常生活はほぼ自立しているものの、興奮や不安感がみられるため、要介護4でした。しかし、3月の介護認定では、**要介護3**と自立へ一歩近づきました。

不穏になってしまう原因は大きく、「**関わり方**」「**空腹**」「**便秘**」だと考えています。どう対応すれば穏やかに過ごしいただけるか、グループホーム渋沢の取り組みをご紹介します。

関わり方

入居当初は誰しも、新しい環境で暮らすことは不安です。Y様がソファに一人で座っている時はなるべく寄り添い、「ここはどこなのか」「何をすればいいのか」について、Y様に伝わったと確認するまで、何回でもお伝えするようにしました。

グループホームは共同生活の場ですが、生活のリズムに支障をきたさなければ、食事や就寝時間は全員一律でなくても構いません。Y様は当初朝が弱かったため、7時の朝食に無理に起こすことはしませんでした。しかし、共同生活を続ける中で、他の入居者様に合わせるように徐々に早起きになり、今は一緒に朝食を召し上がっています。流れで歯磨きもご自分でなさるようになったので、口の中の衛生状態もかなり改善されました。

不安感を軽減するために、Y様がお好きなこと、得意なことは何でも取り入れるようにしました。将棋にパズルや散歩



買い物へ出掛ける所。
Y様は車の運転もお好きだった
そうです。

等々。また、ご家族様から自宅近くのスーパーで買い物をするのが好きだったと伺い、ドライブがてら、そのスーパーで自分の好きな物を買っていただいたところ、とても喜ばれていました。これは続けていこうと思っています。

空腹

Y様はご飯がお好きで一気に召し上がりますが、副食や汁物を残すことがあります。そのため、特に夕食前は空腹で落ち着かなくなり、廊下を何度も歩行されます。そんな時は、

一口サイズのお菓子をご用意したり、おにぎりを冷凍保存しておき、いつでも召しあがれる状態にしておく、空腹感が満たされ、安心された様子になります。

ご飯と副食をワンプレートにすると、残さず召しあがっていただけるので、しばらく続けていました。そのうち、「こんなにいらないよ」と途中でソファに行かれ、数分後「ご飯はないのか？」とたずねられるようになりましたので、今はワンプレートは中止し、少しの量を複数回に分けてお出ししています。



ご入居当初と比べ、
食事が進むようになりました。

Y様は緑内障のため、食べやすく細かく刻んでしまうと、食べ物認識できず混乱してしまうので、刻むのも加減が必要です。



便秘

主治医と看護師に相談しながら、便秘薬の種類・服用回数の調整を行っています。便意がある時は声を掛けて下さるので、真っ先に対応します。便秘が続く状態は辛く、混乱されてしまいます。また、便の状態を確認する際は、ご本人様の自尊心を傷つけないように配慮することも大切です。

入居生活も半年が過ぎ、日常生活でできることが増えてきましたが、それでも時折「もうだめだ」「死にたい」と口にすることがあります。現状に安住せず、トライ&エラーを繰り返しながら、Y様にとって、ベストな方法を探っていきたいと思っています。

フェイスブックもご覧 ください！

三喜会のグループホーム・
デイサービスセンターの
日頃の様子を紹介。あわせて
ご覧下さい。



医療法人社団 三喜会

グループホーム・デイサービスセンター 渋沢

〒259-1326 秦野市渋沢上1-13-28

TEL. 0463(89)5250 <グループホーム>
0463(89)5270 <デイサービスセンター>